



「終末時計」人類最後の日までの残り時間1分30秒 過去最も短く  
「核廃絶への道のりは遠く  
G7首脳は広島で何を失ったのか！」

講師：共同通信社編集委員 太田 昌克様

プロフィール

1968年富山県生まれ。共同通信社編集委員。早稲田大学客員教授長崎大学客員教授。博士(政策研究)。広島支局、外信部、政治部、ワシントン支局等を経て現職。2006年度ボーン・上田記念国際記者賞、2009年度平和・協同ジャーナリスト基金賞(大賞)を受賞。コメンテーターとして数多くテレビ出演。著書に「日米中枢9人の3・11」単著・かもがわ出版、「核兵器について。本音で話そう」共著・新潮社他多数。

2023年早々、アメリカの科学雑誌は人類最後の日迄の残り時間を示す「世界終末時計」を、残り「1分30秒」と発表しました。1947年残り7分から始まった時計は、今年過去最も短く「1分30秒」となり、理由がロシアによるウクライナへの軍事侵攻、更にロシアが核兵器使用を示唆し、紛争の解決が困難になると指摘しています。軍事侵攻から1年半経つにも関わらず停戦への動きも見えないばかりか、両国への関係国からの武器供与は止まりません。

このような中、今年5月世界で唯一の被爆国日本で、しかも被爆都市広島で第49回先進国首脳会議(広島サミット)が開催されました。核廃絶を求める世界中の関心はこの会議で発する首脳たちの宣言文でした。しかし、「核なき世界」を目指すため不可欠な「核兵器の役割低減」に関する記述は全くありませんでした。講師は致命的欠落と指摘しています。

世界終末時計の悲痛な警告も無視した首脳会議宣言であり、被爆地開催にこだわった議長国日本政府の責任は免れないといえます。

主権者は国民です。現在を生きる私たちは未来への責任を果たさなければなりません。核廃絶にむけ懸命に活躍されてこられた太田昌克様の講演を聴き私たちの活動の糧にしようではありませんか。多くの方々のご参加をお待ちしています。

**日時** 2023年10月19日(木) 午後6時開場／  
午後6時20分講演開始～午後8時終了

**会場** ワークピア横浜 (横浜市中区山下町24-1 ☎045-664-5252)

**会費** 1,000円(資料代) 学生無料

主催：一般社団法人勁草塾(代表理事 齋藤 勁)

後援：神奈川新聞社・東京新聞横浜支局、タウンニュース社(順不同)

協力：(公社)日本ジャーナリスト協会

\*参加お申込みの方は下記迄Eメールまたは、FAXをお願いします。先着100名様で締め切らせていただきます。

一般社団法人 勁草塾横浜事務局 e-mail : t-saitou.jimusho@zd.wakwak.com FAX 045-315-7540

勁草塾講演会(2023年10月19日)

出席( )名 ・ 欠席

お名前

連絡先